

なし「幸水」のせん定を 今よりも簡単に進めることができます

【背景】

なしのせん定作業は、高品質果実を安定生産していくためには重要な作業ですが、晩生品種「にっこり」の拡大に伴うせん定開始時期の遅れや温暖化による開花期の前進化に伴い、せん定に充てられる時間が減少してきています。また、せん定には経験や技術が必要で、人材に限られる中、春の作業開始に間に合わない場面もみられます。そこで、**せん定作業を単純なルールで行い、効率的に作業を進める方法**について検討しました。

【結果】

果実をならせる側枝は3年目で更新し、「枝折誘引」を導入することで高度な技術を要せず、新梢を棚面に固定できます。側枝数は花芽を確保するために慣行より3割多く配置し、長果枝と短果枝の割合は1：1を目指します。また、骨組となる主枝や亜主枝から発生した新梢や側枝から伸び出した新梢を決められた場所や長さで切ります（次頁）。

この方法で**収量や果実品質を低下させることなく、せん定時間も1割程度減少させることができました（データ略）。決められた場所や長さで枝を切る作業を未習熟者が行ったところ、習熟者が全ての作業を行う通常の方法と比べ、全体の時間はほぼ同じでしたが、習熟者が行う作業時間を1/3減らすことができました（図1）。**

習熟者が行った「側枝を3年目で切除し、枝折誘引で棚面に固定する」作業も、慣れれば難しくないので、未習熟者の担当部分をさらに増やすことが出来ると思われれます。

注意点としては、この方式は、導入当初は側枝数の確保を意識することや、6月下旬頃に側枝から飛び出した新梢を15cm程度でピンチして花芽を確保することが必要です。主枝の背面から発生した強い新梢を積極的に使うことから、樹勢が強化されるといった樹の変化も見られてきます。

表1 果実品質（3年間の平均）

	地色	糖度 Brix%	硬度 lbs	pH	果肉障害	果重 g	収量 ^Z kg/m ²
簡素化	3.2	12.2	4.9	5.19	なし	386	3.8
標準	3.1	12.3	5.1	5.10	なし	402	4.1

Z 簡素化区に軸折れが多発したR4のデータを除く2か年平均

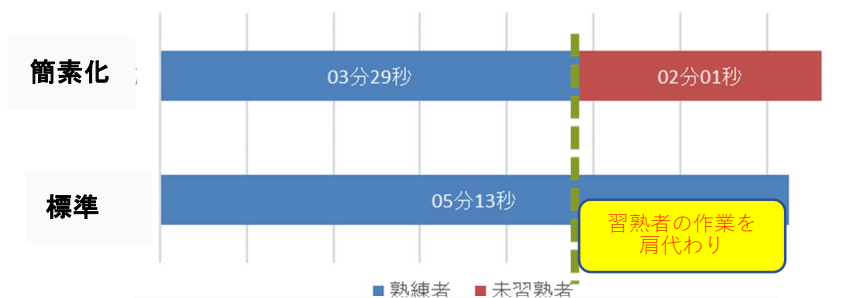
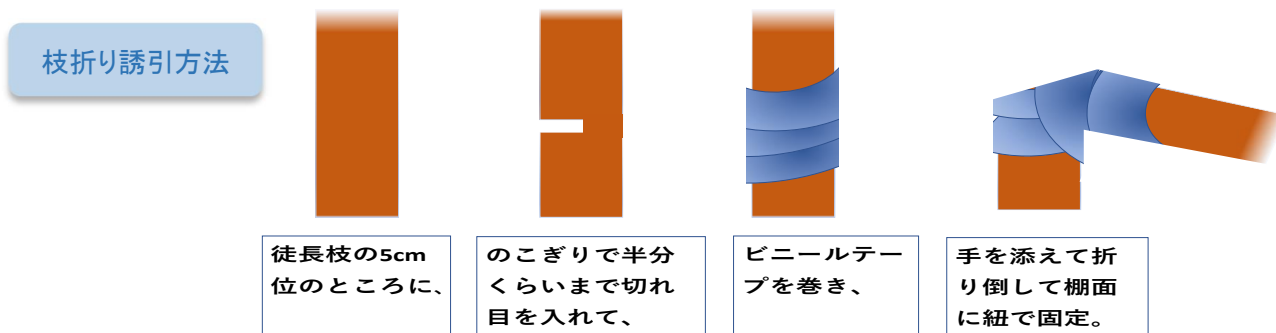


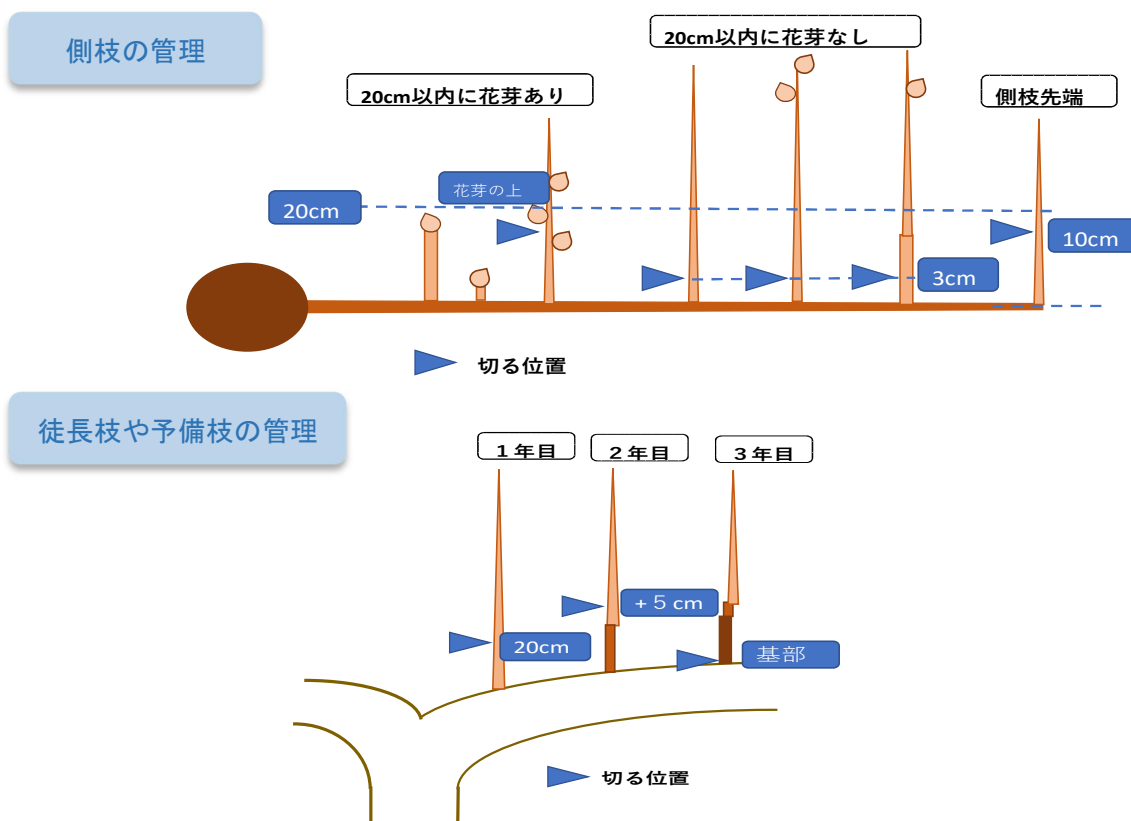
図1 樹間面積あたりせん定作業時間(時間/m²)

単純化した幸水のせん定方法

- 1 主枝・亜主枝の先端から伸び出した新梢を、棚上 50cm 程度の長さで切る。
- 2 3年目の側枝を基部から切る。
(ビニールテープの色を3色でローテーションさせれば、切る側枝を判別しやすい)
※ 切り替える新たな側枝がないときは、側枝の基部に近いほうから出ている強い新梢を残す。
- 3 予備枝や主枝・亜主枝から発生した強い新梢を「折る誘引方法」により、空いた空間に誘引・結束していく。
(適当な予備枝や新梢がない場合は、2で残した新梢を誘引する)



- 4 図の長さで機械的に切っていく。



【新梢管理】

長果枝から伸び出した新梢は、6月下旬～7月上旬頃に15～20cm程度の長さで剪除する。

(果樹研究室 益子 勇)

図 1 単純化したせん定方法

(果樹研究室 益子 勇)